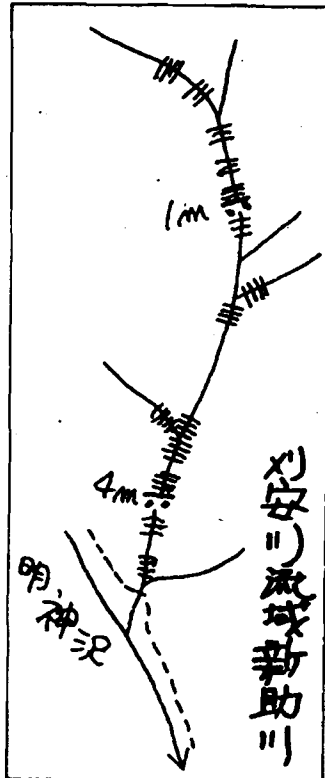


刈安川流域新助川

1990年10月14日

i



天気晴。西栗子トンネルの米沢側に車を止め、刈安川本流明神沢に入る。最初はナメと釜が続き、3mほどの見事な滝が出てくる。右を直登する。続いて2mの滝も右を登り、10分ほどで新助川の出合に到着する。

新助川の出合は、ゴーロで貧弱である。遡行を始めてすぐ、ケーブル設置のための作業道が横切る。この道は荒れているが、栗子山塊を横断して、福島県側へ続いている。

作業道を過ぎるとナメが出てきて、右から支沢が入る。ヤブがかぶさっていて、見逃しやすい。私たちはナメに気をとられていて、この支沢を確認しないまま通過してしまった。このあたりから、沢は出合の貧弱さとは一変して、感じがよくなる。やがて4m

ほどの滝。期待をもって入った沢でないだけに、大きな収穫である。スタンス、ホールドは豊富にある。上部は取水口になっているが、だいぶ古いもので、こわれていて今は使われていない。まわりを確認したが、踏跡も残っていない。

14:00右支沢と出合う。支沢もまたナメである。14:15右から2本続けて小沢が入る。本流には相変わらずナメが断続して現われ、快適に遡行を続ける。

14:25右から小沢が入ると、沢は左へカーブし、水量も少なくなってくる。地図を見ながら休憩していると、沢の上部からカモシカがひょっこり顔を出し、私たちを見ている。このころからポツポツと雨が降ってきた。

14:30遡行終了とし、下降にかかる。作業道まで沢を下降し、あとは作業道を歩いて13号国道に戻る。

(記・和泉 功)

[タイム] 西栗子トンネル(13:35)→新助川出合(13:40)→沢終了(14:30)

栗子川右俣右沢

1990年9月24日

I

天気晴。米沢碎石に断って、車を置かせてもらう。日曜日はゲートがしまっているの、旧13号国道に車を乗り入れることはできない。

米沢碎石の作業場を過ぎ、旧13号国道の橋を渡って、取水槽のところから沢に降りる。沢は暗く、水量も結構ある。左岸には取水のためのパイプが並行する。沢は、やがて廊下状となり、釜が出て来る。左からは4m程の滝がかかって、小沢が入る。この上も1~2mの小滝が出てきた。

9:40遡行を始めて1時間程で左沢との出合に到着する。ここで左沢を遡行する西・鈴木パーティと別れて行動することとする。

左沢と別れると、水量も少なくなり、さして変化もなくなる。1m程の小滝とナメが出てきた後は、沢は伏流となって消えてしまった。沢の醍醐味は、どうやら左沢との出合までで終わりのようだ。

さして濃くもないヤブをこいで、旧13号に出る。地形からして、上部に水流が出て来るとも考えられるので、旧13号にそって旧栗子トンネルまで登ってみると、沢の音が聞こえてきた。トンネルの試削坑の脇に沢は続いている。遡行を続行する。沢は階段状になり、いっきに高度を上げる。

11:35ヤブがかぶさり、変化もみられないので、遡行終了とする。旧13号まで戻り、旧国道を利用して米沢碎石の車デポ地まで戻る。(1)

[タイム] 遡行開始(8:55)→左沢出合(9:40)→旧栗子トンネル(11:20)→遡行終了(11:35)

